

一体改革の現場で思うこと

# 社会保障報道の難しさー①

- (一般論として) 社会制度や政治制度に対する国民の理解には一定の限界がある

→この国の公教育は、社会の仕組みや政治制度、それを支える理念哲学を体系的に教えていない。

→社会保障の姿は、その国・社会のあり方に規定される。  
社会のあり方に対する共通理解がなければ、社会保障制度への理解は形成されない。

「自助と共生」「自立と連帯」「助け合い」「相互扶助」「官と民/公と私」

☆「社会保障の教育推進に関する検討会」

(スウェーデンの中学校社会科教科書との比較をしています)

# 社会保障報道の難しさー②

- 社会保障制度それ自体の複雑さ・難しさ

→社会保障は壮大な「制度・政策の体系」。

給付・負担の規模は100兆円を超え、GDPの20%を超える。

政治・経済システムとも密接不可分。与える影響も極めて大きい。

他方、個々の市民にとっては、社会保障は「日々の生活に直結する個別具体のサービス」。

医療・介護・年金・子育て・障碍・生活保護など、制度の外延は極めて広範だが、その一つ一つがそれぞれに個人の生活に直結。



社会保障(制度・政策)の理解には、経済(マクロ・ミクロ)、政治制度、地域政策、家庭(家族)との関わりなど、広範な背景知識が必要。

他方で個人にとっての社会保障は個別的・多面的であり、年齢や社会階層、生活形態等によって果たしている機能・役割は様々に異なる。

→制度の全体像(マクロの風景)と生活実感(個人と制度との関わり～ミクロの風景)との間の乖離が極めて大きい。

# 制度と現場・理念と実践

- 制度には「理念」があり、現場には「実践」がある。
- 制度理念と現場実践は相互に支えあう関係。  
→制度は現場の実践を支え、現場の実践は制度の理念を実現する。
- 現場の問題提起を受けとめる制度改革  
改革の理念を実践を通じて実現する現場  
↓  
その媒介項としてのメディアの機能

## 現場の実践から生まれた制度はたくさんある

- 認知症グループホーム
- 小規模多機能型在宅介護
- 24時間巡回ケア
- 個室ユニットケア

→現場の実践を制度(介護保険)が体系化し、制度化された実践(ケア)をさらに現場が進化させる

→上位概念としての「制度理念～ケア理念」の重要性  
～介護の社会化・自立支援・尊厳の保障～

# 現場を知ること

- 現場の実践の中から問題の本質を掴み取り、それを言語化し具象化すること。そして、解を導き出すこと。
- 現場を知るために求められる能力とは……
  - ① どれだけ多くの現場と接したかという「経験」から生まれる「人や社会に対する想像力」、
  - ② 相矛盾する様々な事象を分析・理解し、そこから解を導く「専門知」、  
そして
  - ③ 人間としての「感性」、「共感する力」

- 人間としての感性、「共感できる心」がなければ、いくら現場を歩いても、現場の人に接しても、現場の人の気持も、喜びも苦しみも感じ取ることはできない。
- 「専門知」がなければ、現場の事象に振り回され混乱するだけで事柄の本質を見抜くことができない。
- 「専門知」と「感性」のない単なる現場主義は、個別事象に振り回されるだけに終わる。

→大事なことは「解」を見出す(ヒントを見つける)こと。  
:現場の実践を通じて解決できる(すべき)こと  
:制度・政策で対応しなければ解決できないこと

# 報道する側の立ち位置

- 政治部的視点
- 経済部的視点
- 社会部的視点
- 専門誌的視点

# 伝える力(報道者に求められる力量)

- 「伝えるべきこと」と「伝えたいこと」
- 「語られること(伝えられること)」  
と「語られないこと(伝えられないこと)」
- 「週刊こどもニュース」は何が凄いか。  
「わかりやすい報道」ほど難しいものはない
- 視聴者目線、読者目線の意味

# 「取材すること」と「報道すること」 取材者VS被取材者 報道者VS読者・視聴者

- 初歩的な質問を繰り返す取材者
- 初めて知った「パンピー」という言葉

「視聴者は素人、自分も素人。私が理解できないことは視聴者も理解できない。私に理解できるように説明出来ないあなたに責任がある」

- 「ペンと映像」の違い
- 「真実を見抜く力」 「事実の積み重ね＝真実？」
- 「自己実現的言説」 「世論」の自己増殖過程

# ネット社会における「マスコミ」

- 誰もが「発信者」になれる時代  
SNSの威力 双方向情報通信の標準化
- 「報道」の意味の変質
- 外部記憶装置としてのネットワーク